

北日本消毒と災害時の

防疫活動協定を締結

町と総合環境衛生業の株式会社北日本消毒（小樽市）は、2月5日、総合文化センターで「災害時における防疫活動業務の協力に関する協定」を締結しました。

を派遣し、浸水した家屋の消毒などに当たるもので、小樽市や余市町、古平町とも同様の協定を結んでいます。

北日本消毒の湊晃一社長は、「災害が発生した時は、町民の皆さんの力になれるよう迅速に対応していきたい」と挨拶されました。

この協定は、町内で水害などの災害が起きた場合、感染症の発生や拡大を防ぐため、町の要請に応じて同社が社員



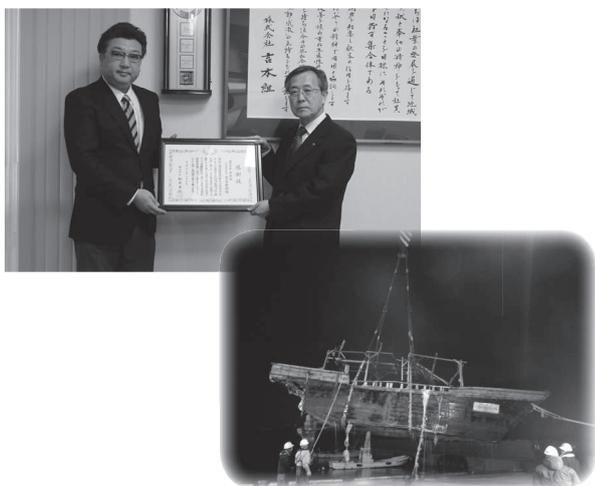
▲湊社長（左）と松井町長（右）

～漂流船引上作業に協力～

(株)吉本組（岩内町）に感謝状

2月4日、優れた技術と社会貢献の精神をもって町の漂流船引上作業に協力された、株式会社吉本組（岩内町）に感謝状を贈りました。

同社は、昨年11月6日に発生した北朝鮮からの漂流船の陸上引上処理に際して、同社が美国漁港での作業を中断して漂流船の引上作業にあたり、遭難船措置業務に貢献されたものです。



▲吉本組による漂流船引上作業

地元で獲れた魚を学ぶ

魚捌き体験教室さば 余別小学校

2月14日、余別小学校（代永研校長・全校8名）で同校PTA（飯田和矢会長）主催の「魚捌き体験教室」が行われ、児童たちは魚捌きから調理までの一連の流れを体験しました。

昨年より始まった教室は今年で3度目。魚も地元漁業者の提供を受け、地域一丸となつての開催となりました。

地元の食文化継承の大切さを訴える漁業者の発案で、一

教室では、町農林水産課の水鳥純雄水産技術指導員がアンコウを捌きながら特徴や部位などについて説明し、その後、児童たちはPTAの指導を受けながらソイやカレイを捌きました。

捌いた魚はアンコウ鍋やグラタンなどに調理され、試食会では全員完食。味だけではなく凝った盛り付けにも歓声が上がりました。

飯田PTA会長は「生き物の命をいただくって生活していること、そして、地域と漁師さんたちへの感謝を忘れないでほしい。」と児童へ感謝する心の大切さを話していました。